

川崎町史下巻 目 次

第七編 現 代

第一章 川崎町行財政・議会のあゆみ

第一節 川崎村・安真木村の合併

- 一 川崎村・安真木村の合併の動き
- 二 川崎・安真木両村合併の進行
- 三 川崎村・安真木村合併
- 四 町制施行

第二節 両村合併・町制施行後の町政の推移

- 一 町政をささえてきた歴代町長
- 二 川崎町総合計画基本構想
- 三 開かれた町政

第三節 役場の機構と分掌事務

- 一 役場庁舎の位置
- 二 町章・町花・町木の制定
- 三 川崎町民憲章の制定
- 四 川崎町部課設置条例
- 五 行政の末端機関
- 六 広報活動

第四節 各種委員会の機能

- 一 教育委員会
- 二 農業委員会
- 三 監査委員
- 四 公平委員会
- 五 固定資産評価審査委員会
- 六 川崎町独自の行政補助委員会

第五節 財 政

- 一 財政状況の公表
- 二 会計の区分
- 三 財政の推移
- 四 特別会計
- 五 町有財産の状況

第六節 町議会

- 一 町村合併以降のあゆみ
- 二 川崎町議会規則等の設定及び改正

- 三 議長及び副議長
- 四 議員定数の推移
- 第七節 選挙
 - 一 戦後の選挙法改正
 - 二 選挙管理委員会
- 第八節 建設事業の推移
 - 一 建設・建設課の事務分掌
 - 二 道路行政
 - 三 河川
 - 四 橋梁
 - 五 失業対策諸事業
 - 六 災害と復旧
 - 七 住宅
- 第二章 水道事業
 - 第一節 川崎町水道事業の沿革
 - 第二節 上水道の利用状況
 - 一 川崎町水道の水源地及び浄水場
 - 二 水道給水地域
 - 三 水道給水量の推移
 - 四 水道料金
 - 第三節 平成六年渇水対策
- 第三章 同和行政
 - 第一節 川崎町の「部落問題の歴史」
 - 一 はじめに
 - 二 部落問題の根底にある穢・賤民制・身分制度
 - 三 小倉藩の部落形成の概略（一六〇〇年～一八六八年）
 - 四 細川期の部落問題（一六〇〇年～一六三二年）
 - 五 小倉藩小笠原期の部落問題（一六三二年～一八六九年）
 - 六 近代の部落問題（明治初め～昭和戦前）
 - 第二節 同和問題と同和行政
 - 一 戦後の部落問題と同和行政
 - 二 同和対策行政のあゆみ
 - 三 「教育・啓発」の同和対策事業
 - 四 産炭地関係法（制度事業）
 - 五 今後の同和行政
- 第四章 住民福祉行政

第一節 生活保護

- 一 戦前の公的救済行政と産炭地「筑豊」の形成
- 二 生活保護と産炭地「筑豊」の再建
- 三 炭鉱閉山と生活保護への地域的依存
- 四 昭和四〇年代の生活保護行政
- 五 昭和五〇年代以降の生活保護行政

第二節 児童福祉

- 一 戦前における児童保護等
- 二 児童福祉法と炭鉱閉山にともなう児童保護
- 三 母子福祉資金の貸付等
- 四 川崎町同和保育所の創設とその背景
- 五 非行問題等への地域的取り組み
- 六 学童保育等

第三節 障害者福祉

- 一 身体障害者福祉法の制定等
- 二 障害者福祉施設
- 三 国際障害者年
- 四 障害者プラン

第四節 高齢者福祉

- 一 川崎町立老人ホーム「愛光園」
- 二 老人福祉法と老人クラブの結成
- 三 在宅福祉サービス等
- 四 老人保健福祉計画
- 五 老人保健福祉計画の実行
- 六 介護保険の導入

第五節 地域福祉

- 一 共同募金
- 二 母子福祉会の結成
- 三 川崎町社会福祉協議会とその事業
- 四 老人福祉センターの開設

第六節 保健・医療サービス

- 一 戦前における町立伝染病院等
- 二 川崎町国民健康保険診療所
- 三 川崎町立病院
- 四 成人病対策と健康づくり
- 五 保健センターの開設

第七節 国民健康保険と国民年金

- 一 川崎町国民健康保険の設置
- 二 老人医療の無料化から老人保健法の制定へ
- 三 国民保険財政の悪化と国保税収納率
- 四 国民年金

第五章 消防行政と警察行政

第一節 川崎町消防のあゆみ

- 一 消防団の沿革
- 二 田川地区消防組合の誕生
- 三 広域災害応援体制の拡充
- 四 田川地区・川崎地区の救急搬送状況

第二節 警察行政

- 一 近代警察制度の創設
- 二 田川地区警察制度の沿革
- 三 川崎地区警察制度の推移
- 四 民主警察の誕生
- 五 福岡県警察時代
- 六 田川警察署川崎警部派出所の誕生
- 七 川崎交通安全協会の沿革

第六章 農林業

第一節 農地改革及び農政委員会

- 一 農地改革
- 二 終戦直後の農政三委員会の役割
- 三 農業委員会の発足及び活動

第二節 農業の実状

- 一 米の生産と流通
- 二 農業構造の変遷
- 三 農業生産の変遷

第三節 農林行政の変遷

- 一 戦後の農政（昭和三〇年前半頃まで）
- 二 農業基本法の制定
- 三 農業振興地域の指定と地域農業振興計画の策定
- 四 林業行政及び林業の実状

第四節 農林業団体のあゆみ

- 一 農業団体の改組（農業協同組合の発足）と変遷
- 二 農業共済組合

- 三 川崎森林組合
- 四 都市と農村の交流施設「ラピュタ」の取り組み

第七章 商工業・金融・観光

第一節 商工業

- 一 本町商店街の形成と現状
- 二 川崎町の商工業

第二節 金融

- 一 庶民の金融
- 二 金融機関設立の経緯
- 三 金融機関の沿革

第三節 観光

- 一 川崎町の観光資源
- 二 失われた景勝地「鮎返り」
- 三 観光資源の開発と保存

第八章 交通・郵便・電話・電力・人口

第一節 交通

- 一 道路交通
- 二 鉄道

第二節 郵便

- 一 郵便局の開設と変遷
- 二 郵便局の概要

第三節 電話

- 一 電話の黎明期
- 二 電話の普及

第四節 電力

第五節 人口

第八編 教育・宗教・文化

第一章 教育——人づくりの軌跡

第一節 近代教育と教育行政制度の変遷

- 一 「学制」発布から昭和前期（終戦）までの教育行政・制度
- 二 教育基本法制下の行政・制度

第二節 学校教育の展開

- 一 就学前教育・保育
- 二 小学校教育
- 三 中学校

- 四 高等学校
- 五 県立川崎養護学校
- 第三節 社会教育の展開
 - 一 明治・大正の社会教育
 - 二 昭和前期（戦前）の社会教育
 - 三 昭和後期（戦後）・平成の社会教育
- 第四節 同和教育の展開と人権教育
 - 一 部落問題と同和教育
 - 二 学校における同和教育
 - 三 社会教育における同和教育
 - 四 生涯学習としての同和・人権教育
- 第五節 文化の時代と生涯学習の振興－生涯学習時代の川崎町教育－

第二章 宗 教

- 第一節 江戸時代以降の宗教政策小史
 - 一 江戸時代の神道・仏教
 - 二 明治以降の宗教政策
- 第二節 神 社
- 第三節 寺 院
 - 一 浄土真宗本願寺派
 - 二 真宗大谷派
 - 三 浄土真宗東本願寺派
 - 四 真宗木辺派
 - 五 日蓮宗
- 第四節 天理教

第三章 文化と文化活動

- 第一節 地域文化の土壌
 - 一 幕末期のムラの文化
 - 二 明治、大正、昭和初期の郷土の文化
- 第二節 戦後の文化活動
 - 一 戦後の文化活動の息吹き
- 第三節 炭鉱と文化活動
- 第四節 娯楽芸能文化
 - 一 紙芝居
 - 二 川崎の‘むら’芝居
 - 三 劇場物語
 - 四 大衆娯楽の雄・映画館－田川と川崎

- 五 音楽活動
- 第五節 文芸活動
 - 一 統一文芸活動・文芸同人誌
 - 二 むらに息づく文化
 - 三 昭和の川崎俳句界
 - 四 川崎の短歌
 - 五 自由詩の人々
 - 六 闘いの記録・郷土が生んだ作品
- 第六節 郷土史誌
- 第七節 映像活動の先覚者たち
- 第八節 筑豊ゆかりの作家展に見る川崎町の美術
- 第四章 町内の文化財
 - 第一節 指定文化財
- 第九編 民 俗
 - 第一章 社会生活
 - 第一節 地域の概要
 - 第一節 ムラの範囲と区分
 - 第二節 ムラの成員
 - 第三節 ムラの暮らし
 - 第四節 炭坑の暮らし
 - 第五節 マチの暮らし
 - 第六節 家族と親族
 - 第七節 諸集団
 - 第八節 ムラと炭坑とマチ
 - 第二章 生 産
 - 第一節 農 業
 - 第二節 炭 坑
 - 第一節 林 業
 - 第二節 諸 職
 - 第三節 硅石鉱山
 - 第三章 交通・商業
 - 第一節 交通・運搬
 - 一 交 通
 - 二 運 搬
 - 第一節 交易・商業
 - 一 交 易

- 二 商業・金融
- 三 炭坑での旅行・消費

第四章 衣食住

第一節 衣

- 一 衣類
- 二 履物・雨具
- 三 装身具

第二節 食

- 一 食事
- 二 調理・食器

第二節 住

- 一 ムラの住
- 二 炭坑の住
- 三 マチ（本町・吉原）の住

第五章 人生儀礼

第一節 産育

- 一 妊娠
- 二 出産
- 三 生育

第一節 成人の儀礼と厄年

第二節 婚姻

- 一 相手の決定
- 二 縁談の成立
- 三 婚礼
- 四 婚姻以後の行事

第三節 葬制

- 一 死と葬
- 二 葬式
- 三 死後の供養
- 四 墓制

第六章 信仰

第一節 ムラでまつる神社と祭り

第二節 炭坑でまつる神と祭り

第三節 クミでまつる神仏と祭り

第三節 イエでまつる神と祭り

第四節 共同祈願と個人祈願

第五節 寺院と仏教習俗

第七章 年中行事

第一節 暦

第二節 正月の行事

第三節 春・夏の行事

第四節 盆の行事

第四節 秋・冬の行事

第八章 口頭伝承

第一節 民話

一 昔話

二 笑い話

三 世間話

四 伝説

第一節 民謡

一 仕事歌

二 盆踊り歌

三 わらべ歌

第九章 芸能・競技・俗言・遊び・民間療法

第一節 芸能・競技

一 しし舞いと浦安の舞

二 相撲

第二節 俗言

一 禁忌

二 予兆

三 まじない

第三節 娯楽と遊び

一 娯楽

二 子どもの遊び

第二節 言葉遊び

第三節 民間療法

年表